

Johann Sebastian Bach  
Sonaten für Flöte



Flute: Takashi Endo  
Cembalo: Maurizio Croci

# J.S.バッハ：フルート・ソナタ集

## Johann Sebastian Bach Sonaten für Flöte

フルートと通奏低音のためのソナタ ホ長調 BWV1035

Sonate für Flöte und Basso Continuo E-dur BWV1035

[1] I - Adagio ma non tanto 2:47

[2] II - Allegro 3:21

[3] III - Siciliana 4:13

[4] IV - Allegro assai 3:23

無伴奏フルートのためのソロ(パルティータ) イ短調 BWV1013

Solo für Flöte a-moll BWV1013

[5] I - Allemande 3:23

[6] II - Corrente 2:05

[7] III - Sarabande 3:10

[8] IV - Bourrée Anglaise 3:04

フルートと通奏低音のためのソナタ ホ短調 BWV1034

Sonate für Flöte und Basso Continuo e-moll BWV1034

[9] I - Adagio ma non tanto 3:35

[10] II - Allegro 2:45

[11] III - Andante 3:37

[12] IV - Allegro 4:56

フルートとオブリガート・チェンバロのためのソナタ 口短調 BWV1030

Sonate für Flöte und Obligates Cembalo h-moll BWV1030

[13] I - Andante 8:21

[14] II - Largo e dolce 4:21

[15] III - Presto 5:57

フルート：遠藤剛史 Flute:Takashi Endo

チェンバロ：マウリツィオ・クロチ Cembalo:Maurizio Croci

## 300年後のバッハ

私が通った小学校の音楽室には、世界中の作曲家達の写真がたくさん貼られていました。

後に私は、偉大な作曲家は、小学校の音楽室の壁に貼ってあるだけでは済まされないと思うわけですが、当時の私は「白髪長髪で、派手な衣装を纏った、世界のどこかの国で活躍した歴史上の人物」としか捉えてなかつた様に思います。

音楽室に貼られた作曲家達は、年表の様に左から右へ、つまり左に行くにつれ現代より遠ざかっていくわけですが、確かに一番左がJ.S.バッハだったと記憶しています。そのJ.S.バッハが、その後音楽家を志す私の音楽観の中枢に位置する存在となりました。

最初にJ.S.バッハを聴いたのは、10歳の頃だったと思います。当時定盤だったレコードで、カール・リヒター指揮、ミュンヘン・バッハ管弦楽団演奏。曲目は管弦楽組曲でした。歯切れの良い、均整のとれたリズムに魅了され、何度も何度も聴きました。

そして私自身がJ.S.バッハの曲を演奏する様になると、音の織りなす綾の面白さから抜け出せなくなり、益々J.S.バッハの虜になりました。

しかしその後、私に転機が訪れます。

大学に入学して、鍋島元子先生、有田正広先生、花岡和生先生にバロック音楽の実習や、フラウト・トラヴェルソ、リコーダーを教えていただき、音の一つ一つが持っている「命」というか「価値」というか「膨らみ」というか、総て合理的にいくものではないことを知りました。対極なものに聞こえるかもしませんが、私はここで「音の必然性」を知ることになります。また「音の必然性」と相まって、つまり音を奏でる上で切っても切り離せないものが「楽器」であることを、強く意識する様になったのもこの頃でした。

楽器の特性と音楽は切り離せません。しかしこれは、現代に於いてバロック音楽を演奏する時に、作曲された当時の完璧な状態で演奏すべきだということではありません。しかし、それらを知ったうえで演奏することは、私にとって必要なことと考えております。

フルートに関して言えば、フラウト・トラヴェルソとモダン・フルートでは、発想が全く異なります。フラウト・トラヴェルソは、円錐管で、一つ一つの音がそれぞれ色を持っており、クリアな音や、渋い音など様々です。しかし、モダン・フルートは円筒管で、均一性と音量が出ることが特徴です。

今回私が選んだのは、19世紀半ばに製作された、ルイ・ロット初代の円錐木管フルートです。時代からすると、バロック時代と現代の中間くらいでしょうか。

楽器の面白さを語るときりがなく、別の機会に譲りますが、今回ルイ・ロットと久保田彰氏が製作されたチェンバロで録音できたことは、大変幸せです。来日期間中多忙な中、バロック鍵盤楽器の権威である、M.クロチ教授と録音できたことも大変嬉しく思っております。

また、録音に関わってくださいました、トーンマイスターの長江和哉氏、遠路はるばる三台のチェンバロを運んでくださった久保田彰氏、調律のため常駐してくださいました木村和人氏をはじめ、碧南エメラルドホールのスタッフおよび関係者の皆様には深く感謝申し上げます。

300年はまだ始まったばかり…



桐朋学園大学卒業。

同研究科修了後、欧米各地で演奏旅行を行う。

日本フィルハーモニー交響楽団入団、メルボルン交響楽団との交換楽員として3ヶ月演奏。

日本の作曲家シリーズ、日本の芸術家シリーズ、作曲家の個展、現代の音楽展、サウンド・スプラッシュ(池辺晋一郎企画)、ミュージック・トウディ(武満徹企画)、日本作曲家協議会等、国内外の新作を多数演奏。

また、演奏家グループ「プレイヤード」を組織し、東京芸術祭を始め、数々の演奏会、リサイタルを行った。平成9年度文化庁芸術祭音楽部門大賞受賞。

ヴィラ=ロボス生誕100年記念では、理事として連続演奏会を企画、出演。

ベル・エポックの名器を使い、その時代の曲を集めた、フルートをピアノによる「見えない笛」を98年2月よりリリース。4月から99年5月にかけて「日本におけるフランス年」のフランス大使館の正式な後援を得て、全国で演奏会を重ねる。また、全音楽譜出版社より「フルートによる愛の歌曲集」を出版(遠藤剛史 編曲)。

99年、「バッハと日本人」というテーマで、J.S.バッハの作品4曲と邦人委嘱曲9曲(全曲世界初演)というプログラムで、連続演奏会をおこない、平成11年度文化庁芸術祭音楽部門優秀賞を受賞。

## 遠藤剛史 フルート Takashi Endo

現在、日本フィルハーモニー交響楽団、及び日本のオーケストラの選抜メンバーである、ジャパン・ヴィルトゥオーゾ・シンフォニー・オーケストラにて活動を続けている。

フェリス女学院講師。

Takashi Endo (flute)

Graduated from Toho Gakuen School of Music and after finishing Graduate School, toured around Europe.

After joining Nippon Philharmonic Orchestra, played with the Melbourne Symphony Orchestra for 3 months as exchange orchestra member.

Performed in Japanese Composers Series, Japanese Artists Series, Composer Exhibitions, Music Exhibition of Today, Sound Splash (project by Shinichiro Ikebe), Music Today (project by Toru Takemitsu), The Japan Federation of Composers, performing numerous new works in Japan and abroad.

Founded the performance group "Pleiade", attending Tokyo Art Festival, and giving various

2016年2月、ブラジルと日本との架け橋をテーマとしたアルバム「ENCOUNTER ~出逢い~」をリリース。ブラジル大使館の正式な公演を得、コンサートおよびライブ活動を続ける。

concerts and recitals. In 1997, received the Grand Prize of Arts Festival hosted by the Japanese Agency for Cultural Affairs.

For Villa-Lobos' centenary, planned and performed in the continuous concert series as a director. Using the fine instrument from the Belle Epoque period, released an album of flute and piano titled "Une Flûte Invisible" in February 1998. During April to May 1999, with official support by the French Embassy for the "French Year in Japan", performed in various concerts throughout Japan. Published "Songs of Love by Flute" (arranged by Takashi Endo) from Zen-On Music Company Limited.

In 1999, received the award for outstanding performances of Arts Festival hosted by the Japanese Agency for Cultural Affairs, by giving a continuous concert under the theme of

"Bach and Japanese", performing 4 works by J. S. Bach and 9 commissioned works by Japanese composers. (all of them being world premiere performances).

In February 2016, released the album "ENCONTRO" taking up a theme of the bridge between Brazil and Japan and continues to give live performances with official support by the Brazilian Embassy.

Currently, member of Nippon Philharmonic Orchestra, and Japan Virtuoso Symphony Orchestra, which consists of selected members from various Japanese orchestras.

Lecturer at the Ferris University.



マウリツィオ・クロチ チェンバロ

Maurizio Croci(1970-Como, Italy)

ミラノ音楽院、トレント音楽院でオルガン・チェンバロのディプロマを取得。

バーゼルスコラカントルム大学院（オルガン・チェンバロ科）修了。J.C.ツエンダー、A.マルコンに師事。フリブルール大学を卒業（音楽学）。L.F.タリアヴィーニに師事。1998年「ボルホフハイマー国際コンクール」優勝。欧州各国、日本で演奏会を行った。

G.フレスコバルディ「音楽の花束(STRADIVARIUS)」をはじめ、数多くのCDを録音。アルクマール（オランダ）トゥルーヴーズ（フランス）ランツヴェルク（ドイツ）ボルカディカドーレ（イタリア）等、国際コンクールの審査員を務める。

現在、フリブルール音楽院(HEMU)オルガン科教授、ミラノ古楽アカデミー古楽系主任・チェンバロ科教授。スイス(ベルン)聖三位一体教会、ミカエル教会オルガニストを務める。

Maurizio Croci

Prize-Winner of the Paul Hofhaimer international competition in Innsbruck, Maurizio Croci has concertized throughout Europe, Russia and Japan.

He gives regularly masterclasses on early keyboard music and sits on a jury of international competitions (Alkmaar, Toulouse, Freiberg, etc.).

His several CD recordings (devoted to J.S. Bach, G. Frescobaldi, C. Monteverdi, G.F. Haendel, D. Scarlatti, A. Soler, A. Gabrieli, etc.) received international critic awards.

For his latest Bach recording "Bach Mirrored" he received in 2017 the "Preis der deutschen Schallplattenkritik".

He is Organ Professor at the HEMU - University of Music in Lausanne and Harpsichord Professor at the Civica Scuola di Musica "Claudio Abbado" in Milan. He is Artistic Director of the Foundation Academie d' Orgue de Fribourg.

Session Recording at Hekinan Emerald Hall 29-30 September 2016

2016年9月29日(木)、30日(金) 愛知県・碧南エメラルドホール

Produced by Takashi Endo, 遠藤剛史

Recording Director, Balance Engineer, Editing and mixing : Kazuya Nagae 長江和哉

Assistant Engineer : Shintaro Sugiura 杉浦貞太朗

#### Recording Equipment:

Microphones: DPA 4006 for main microphones, Schoeps Mk22, MK2S, Neumann KM184 for spot and room microphones.

RME Micstasy microphone preamplifier, high resolution AD converter, Magix Sequela Workstation.

Genelec 1030 loudspeakers, Original format: 192 kHz / 24-bit.

Cembalo : Akira Kubota, Early Keyboard Instruments Workshop

チェンバロ：久保田チェンバロ工房 久保田彰

Cembalo Technician : Kazuto Kimura, Atelier ksklavier Tuning by Neidhardt

チェンバロ調律：キムラピアノ工房 木村 和人（ナイトハルト調律）

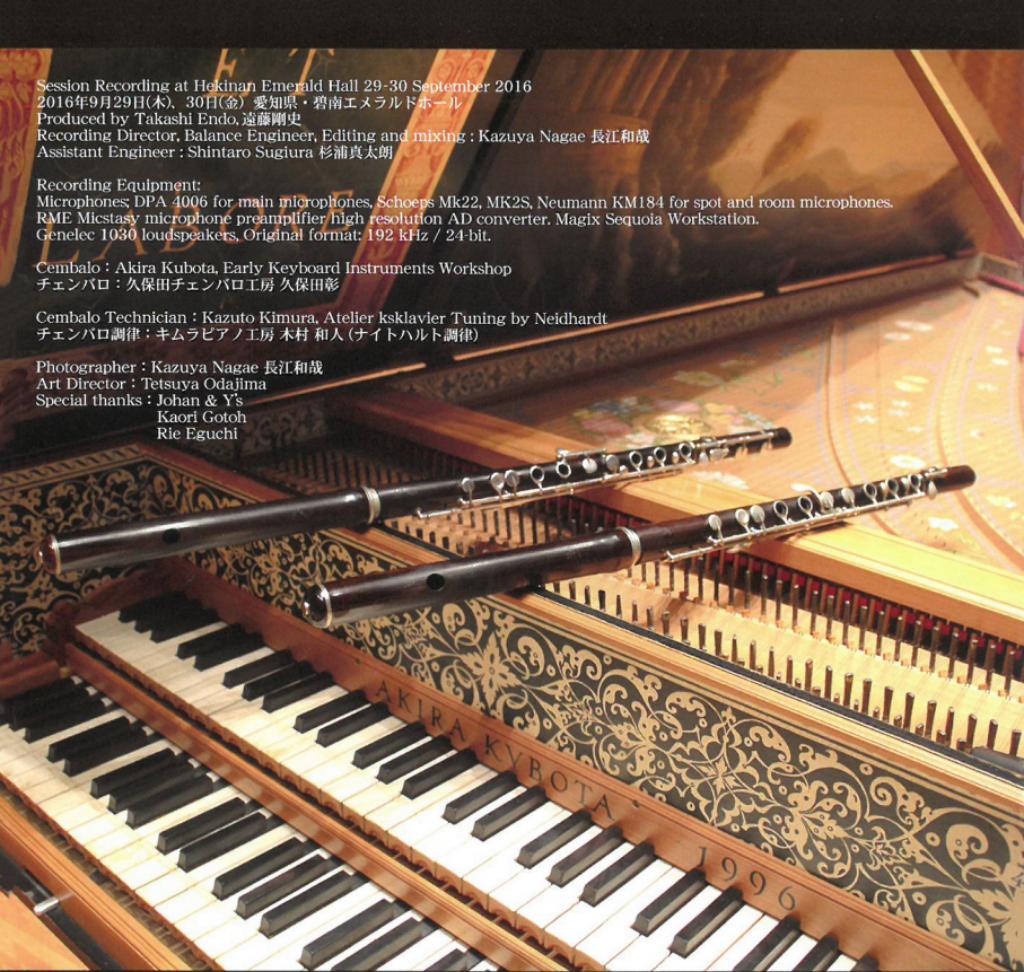
Photographer : Kazuya Nagae 長江和哉

Art Director : Tetsuya Ochiai

Special thanks : Johan & Y's

Kaori Gotoh

Rie Eguchi



# J.S.バッハ：フルート・ソナタ集

## Johann Sebastian Bach Sonaten für Flöte

フルートと通奏低音のためのソナタ ホ長調 BWV1035  
Sonate für Flöte und Basso Continuo E-dur BWV1035

- I - Adagio ma non tanto
- II - Allegro
- III - Siciliana
- IV - Allegro assai

無伴奏フルートのためのソナタ(パルティータ)  
イ短調 BWV1013

Solo für Flöte a-moll BWV1013

- I - Allemande
- II - Corrente
- III - Sarabande
- IV - Bourrée Anglaise

フルートと通奏低音のためのソナタ ホ短調 BWV1034  
Sonate für Flöte und Basso Continuo e-moll BWV1034

- I - Adagio ma non tanto
- II - Allegro
- III - Andante
- IV - Allegro

フルートとオブリガート・チェンバロのためのソナタ  
ロ短調 BWV1030

Sonate für Flöte und Obligates Cembalo h-moll BWV1030

- I - Andante
- II - Largo e dolce
- III - Presto

フルート：遠藤剛史 Flute:Takashi Endo

チェンバロ：マウリツィオ・クロチ Cembalo:Maurizio Croci



©2017 発売元：日本ウェストミンスター株式会社 <http://www.nihon-westminster.com/> 販売元：株式会社フロレスタン <http://www.florestan.co.jp>

NWCC-9008 STEREO MADE IN JAPAN 定価:3,000円+税 [17・06・21] [17・12・20まで]

このCDは、一定期間貸与非返却商品ですが、この期間超過後も権利者の許諾なく販賣店に使用すること、また個人的な範囲を超える使用目的で複数すること、ネットワーク等を通じてこのCDに収録された音を送付できる状態にすることは、著作権法上で禁じられています。